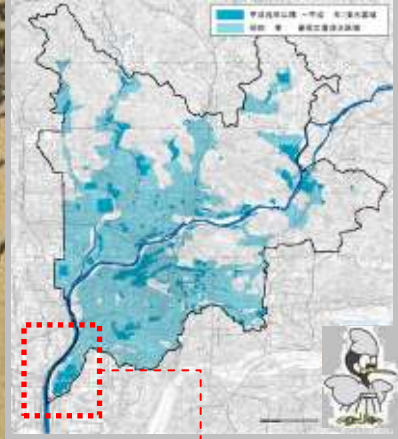


復活！三余私塾

- ソーシャルキャピタルに着目した地域防災力の向上策 -

杉浦聡志 杉本達哉 福永渉 森寛典 山崎祐輔 《題字》黒川貴啓
 岐阜大学大学院 社会基盤工学専攻



対象地域：岐阜市日置江校区

概要

岐阜市日置江校区は、長良川沿いに位置する旧輪中地区であり、岐阜市内では最も標高が低く、水害に悩まされてきた地域である。一方、私立大学の存在や利便性の高さから外部からの移住者が多く、新旧住民間の交流機会も少ないため、かつてのソーシャルキャピタルが希薄化してきている。このような背景の下、明治時代において当該校区に存在した寺子屋的地域教育システムである「三余私塾(さんよしじゅく)」を復活させることを提案する。この「三余私塾」では、防災力向上に資する体験型学習やレクリエーションを行い、地域住民の郷土愛や防災意識を育むことで地域防災力の向上を目指す。加えて、子供同士や親同士、さらには世代を超えた交流が促進され、ソーシャルキャピタルの向上が期待される。また、「三余私塾」の持続と活性化を図るために、新旧地域住民の自発的・協働的な地域活動参加に対する評価とインセンティブを高めるツールとして「参与私尺」を提案する。

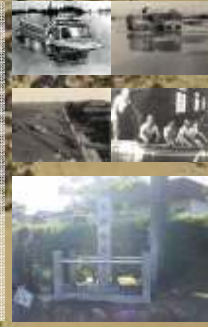
現況

- 日置江地区自治会の現状
会長指揮によるトップダウン
新住民の参加意欲が低い
旧住民の自治会への理解が薄い
 - 防災への取り組み
防災訓練
DIG訓練
etc.
- 地域住民同士の関わり、協力体制の衰退

歴史

■碧江から日置江へ
岐阜市日置江地区は古来から輪中地域であった。「日置江」とは、青々とした水のあふれた地域という意味から名づけられた「碧江」が変化した地名である。このことから、より水害の多い地域であった事を知ることが出来る。

■「三余私塾」：農民によって開かれた私塾
三余私塾は日置江の農民、青木トツによって1845年に開業された。年の余り(冬)月の余り(雨の日)一日の余り(夜)に学問を勤めるという意味を持つ「三余」から名づけられた。私塾では儒者が教師となることが一般的とされる中、農民の塾主による経営は異色の存在であった。

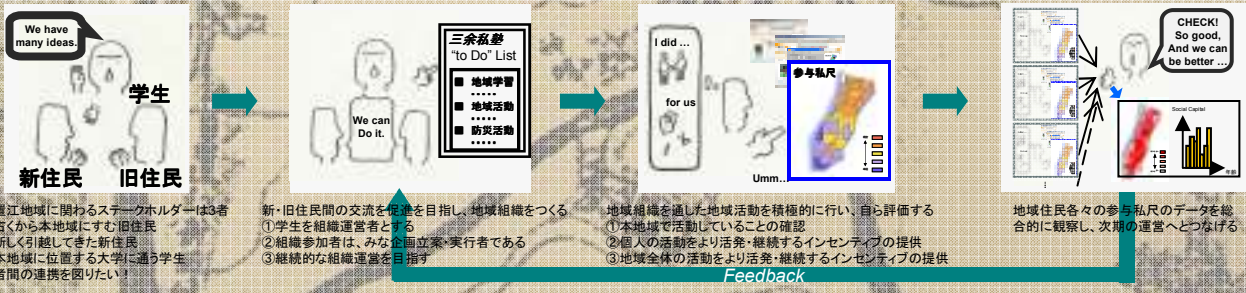


課題

地域活動関係主体のボトムアップ
地域防災力(特に共助の面)の低下

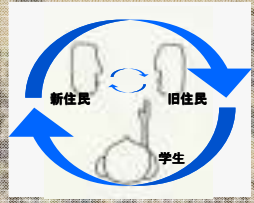
提案

一三余私塾の再始動一



展望

継続的な運営により地域住民間の密接な関わりを形成し、持続的に郷土愛や防災知識を育むことによって、地域防災力(共助の面)における向上。



三余私塾

運営

■参加者全員が主体的に参加する組織
運営のトップが運営や活動状況をすべて決定するのではなく、三者がそれぞれ運営や活動内容を提案する。
→ボトムアップが起こりやすい雰囲気にする。

■学生が指揮をとる組織
日置江の近くには私立大学が存在しており、地域内に学生が住んでいる。短期間で地域を離れる学生の活かして、トップ(学生)が次々と入れかわる組織を構成する。
→学生が旧住民と新住民の意見をとりまとめ、円滑に運営が行われるようにする。

■三余私塾の開講場所
加納城の二の丸門とされる城門を移築した代官屋敷



活動内容

現在、日置江校区に存在する且格小学校では、地域や保護者とふれあうことができるように、碧江万灯笼フェスティバルや日置江の歴史を聞く会などのような行事が開催されている。こういった活動を地域に住むすべての人が参加できるように、三余私塾の活動として引き継ぐ。また、地域防災力の向上や地域教育、住民の交流を促進させるために、以下のような活動を新たに提案する。

防災レクリエーション

■内容
自主防災力向上に資するレクリエーション
■効果
防災知識の向上
自主防災力の向上
住民同士の交流(共助の促進)

日置江カルタの制作

■内容
日置江について住民が調べ、カルタにする
■効果
郷土愛を育む
地域について主体的に学ぶ
地域の歴史を伝承する

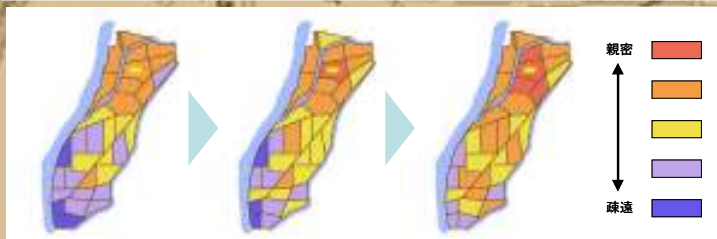
オヤジの自由研究

■内容
夏休みの宿題となっていた自由研究を行う
■効果
親と子の協働作業の場の提供
親世代間の交流
世代間の交流

個人の活動評価

参与私尺

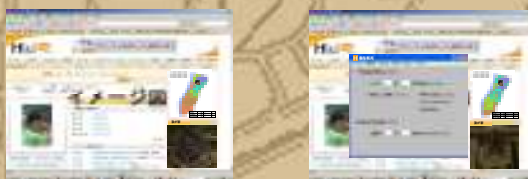
「三余私塾」を持続させ、地域に根付かせるために、我々は「参与私尺」という尺を提案する。参与私尺とは、自分自身の三余私塾への活動度や日置江校区住民との交流度などを表した地図により、それらを視覚的に確認することで、自分が日置江校区へどのくらい参加しているかを知ることができるツールである。この参与私尺を確認することによって、さらに地域活動へ参加しようという気持ちにさせることが狙いである。



色の变化によって、自分が日置江校区内のどの地区に住んでいる住民と親しくしているかわかる。色の变化をみることによって「三余私塾への参加効果を視覚的に表現し、三余私塾への参加の促進が期待される。

hixi

参与私尺を、定期的に目にしてもらうため、完全地域型SNS「hixi」を設置する。SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略)は、会員同士の交流が可能なインターネットサービスである。参加者を日置江校区在住の住民に限定することにより、住民間の交流が盛んになり、趣味や境遇が同じ友人を見つけることができる。通常のSNSの機能に「参与私尺欄」、「三余私塾からの情報発信欄」を設けることにより、自治会未加入世帯への情報発信も担うことができる。

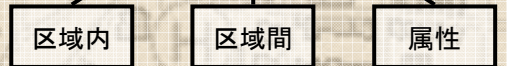


日置江校区全体の評価

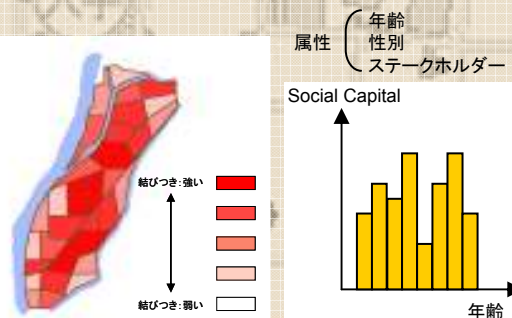
階層1

$$(SocialCapital) = \sum f(\text{仲の良さ}, \text{距離})$$

階層2



参与私尺で得られたデータを活用することで現状分析を行い、その結果を三余私塾へフィードバックさせる。これにより、三余私塾をソーシャルキャピタルの向上により有効なものとすることができる。現状分析は、全体的な分析を行う「階層1」、詳細な分析を行う「階層2」の二段階による分析である。「階層1」では各地域住民のソーシャルキャピタルの合計をみることで、地域全体に対する三余私塾の有効性の分析を行う。また、「階層2」では地域を分割した区域毎にみたり、性別や年齢などの属性毎にみることで、より詳細な分析を行い「階層1」を補う。



個々人の評価を地域全体でみて、次期の運営につなげる